M. N　日本語日本文学科　3 年次

参加期間：　2019 年　8 月 9 日～　9 月 1 日（3 週間）

受　入　校：　Trawalla primary school, Lumen Christi primary school（Beaufort, Ballarat）

Ⅰ．教育実習について

私は滞在中に合計 18 校の授業に参加しました。多い日は 1 日に 9 校の学校で授業をするという日もありました。学校間の移動だけでかなりの時間がかかると思われますが、1 日にこれだけ多くの学校で授業をすることを可能にしているのが IT 技術です。カメラとマイクの機能が付いたテレビがビクトリア州から各学校に支給されており、それを使ってインターネットを通した授業が行われています。なので、次の学校のために車を走らせる必要はなく、基点となる学校の教室で一つの授業が終われば次の学校とテレビを繋ぐ、という手順で授業が進められていました。これによって町から離れたところにある学校や、教えられる教師がいない地域であっても日本語の授業を受講することができます。ただし、学校の立地環境や天候によっては回線がつながりにくく、画面や音声が乱れ、授業が円滑に進められないということもあり、オーストラリアの教師には教科指導技術だけでなく IT のトラブルに対応できる力も必要とされると感じました。

また、18 校の内、4 校は実際に同じ教室で顔を合わせた状態での授業もありました。こちらの授業でも必ずと言っていいほどテレビ画面やプロジェクターを使用しました。

基点となった教室

テレビを用いた授業風景

授業内容としては、児童の日本語使用能力向上よりも、日本や日本文化に親しみをもってもらうことを第一に考えられた内容で、私が作成した故郷、趣味、食べ物に関するパワーポイントを使って、私自身や、日本について紹介するというものでした。授業中は授業開始と終了の挨拶、発音練習以外は全て英語で行われ、私がパワーポイントを使って紹介をする場面でも英語が求められました。既習内容は学年というよりは学校によって異なる印象を受けました。1 から 10 までの数字と色に関する語彙は、ほとんどの児童が既習内容として身につけており、動物の名前も覚えている児童が多かったです。

授業時間は学校によって異なりますが、1 コマ 60 分のところが多かったです。テレビを用いて授業を実施する学校では、前半の 30 分で日本語教師が授業をし、後半の 30 分で現地の先生の指示のもと、こちらから送ったプリントの課題に取り組んでもらう、といった内容の授業が行われていました。なので、実質 30 分の授業を、学校が入れ代わり立ち代わりしながら、休憩する間もなく、目まぐるしく進められました。直接顔を合わせて行われる授業では、60 分全てを日本語教師が担当するので、飽きてしまわないようにゲームやダンスが多く行われました。

対面での授業風景

絵本の読み聞かせ

小学校以外には、ホストファミリーの子どもが通っている近所の幼稚園で、私が来ているということで急遽、活動をする日を設けてくださいました。そこでは、お好み焼きづくりや、日本語と英語での絵本の読み聞かせや、工作で鯉のぼりづくりなどをしました。私が滞在した場所は、小さな町で外国人と接する機会がほとんどないそうなので、先生方にも喜んでいただけました。

幼稚園での様子①

幼稚園での様子②

Ⅱ．ホストファミリーについて

私は二つのご家庭にホームステイをしました。一つは実習中に担当教員としてお世話になった先生のご家庭でした。こちらはご夫婦そろって日本語教師をされていました。５歳と１歳のお子さん（女の子）がいらっしゃって、家の中は常に賑やかでした。２人が走り回って怪我をしないように、また、妹がお姉ちゃんのものを取って喧嘩にならないように、子どもたちに気を配りながら一緒に遊びました。もう一つは実習でお邪魔した小学校の児童のご家庭でした。小学３年生と中学２年生の女の子たちがいたので、学校で流行っていることを教えてもらったり、お土産を買うのを手伝ってもらったりしました。両ご家庭とも、休日はショッピングモールやスポーツ観

戦を含む観光に連れて行ってくださり、有名どころからガイドブックに載っていないところまでオーストラリアを満喫し、様々な体験をさせてもらいました。

隣町へおでかけ

中学 2 年の子のネットボール応援

Ⅲ．参加希望者へのアドバイス

私は日本語教育を専攻しており、特に年少者への日本語教育に関心を持っていたのでこのプログラムに参加しました。ただ、オーストラリアの風習や食べ物、滞在地域に関する知識などは直前まで持っていませんでした。現地で学ぶことも沢山ありますが、予備知識はあるに越したことはないと思います。事前準備として、自分や日本について説明ができるようにしておくことに加え、現地についても勉強しておくことをお勧めします。

コミュニケーションを取る上での英語力は気に病む必要はないと思いますが、聞き取れず分からないことを適当に受け流すのは失礼なので、何と言ったのか、どういう意味なのかを是非聞き返してください。きっと平易な英語でゆっくりと伝えてくれると思います。会話の回数を増やすことが相互理解の一番の近道なので、とにかく聞いて、自分の言葉で言い換える、ということを心掛けてみて下さい。

また、折り紙、けん玉、空手、茶道など実際に披露できる日本的な特技や紹介できる何かがあると役立つと思います。私は滞在中に Japanese Day という、日本文化を体験する日が学校であると聞いていたので、その日は浴衣を着て書道の体験授業を担当させてもらいました。他にも、近所の幼稚園を訪問した際に浴衣を着たので、浴衣を持っている方は着る機会があるかを担当の先生やホストファミリーに尋ねてみてもいいかもしれません。

A. T　人間生活学科　2 年次

参加期間： 2019 年 8 月 9 日～ 9 月 1 日（3 週間）

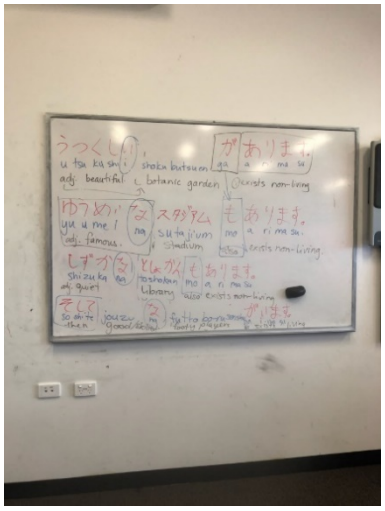
受 入 校： North Geelong Secondary College school（Geelong）

Ⅰ．教育実習について

私は 7 年生から 12 年生までの公立の学校に行きました。そこで、7、8、9 年生の授業に参加しました。日本語を教える先生が二人いて、どちらの授業にも参加しました。授業は少ない日で 2 コマ、多い日で 6 コマという程度でした。生徒全員に iPad が配布されており、授業だけでなく自主学習にも多く活用されていました。この学校で日本語を教え始めたのは 3 年前からで 9 年生が一番上の年になり 10 人弱程度が授業を選択して取っていました。日本のアニメや漫画が好きな子が多く、授業も熱心に受けていました。

授業では、日本語文の組み立て方を教えたり、日本の都市について文章を 10 文程度作ってもらったりしました。7、8 年生は、日本語とドイツ語が半期ずつの必修となっていました。クラスによって雰囲気は様々でした。7 年生はひらがなや自己紹介について学んでいました。決められた定型文に沿って自己紹介文を作った後、その発音のテストがあったので一緒に練習をしました。日本語とローマ字を使って自己紹介文を作るのですが、ローマ字を中学校に入ってから初めて学んだ子もいてレベルも様々だと感じました。

8 年生は形容詞や「私の町」というテーマで学んでいました。私も事前にパワーポイントを作り、授業で発表をさせてもらいました。私の町に興味を持ってくれたクラスもあって嬉しかったです。7、8 年生は学外行事が多く授業がなくなってしまうことが多くありましたが、その時間を利用して資料づくりやほかの授業の見学にも行きました。また、毎週遠足に行く機会がたまたまあり、どれもとても楽しくていい思い出ができました。



Ⅱ．ホストファミリーについて

私は実習先の日本語の先生の家にホームステイをしました。おじいさんとおばあさんとホストマザーのパートナーの 4 人と大型犬を 3 匹かっていました。学校までは家から 30 分程度の距離でホストマザーの車で一緒に行っていました。学校から帰ると犬たちを散歩に連れ行くことが日課だそうで私も何度か一緒に行きました。天気がいい日だととてもきれいな夕日を見ることができ、感動しました。

ホストマザーは日本で生活したことがあり、勉強熱心な方だったのでとても日本語が上手で日本語で話すことが多かったです。他の家族とは英語でその日あったことなどを話していました。みんなとてもいい人たちだったので、私のたどたどしい英語にも親身なって付き合ってくれ、オーストラリアに関することや家族の歴史を熱心に教えてくれました。

食事の際は、私に合わせて多くの日本料理を作ってくれました。週に 3 回はご飯を炊いて食べて、その時は家族全員お箸を使って食べました。週末は動物園に行ったり、ゴルフの打ちっぱなしに行ったり、買い物に行くなど私が行きたいところに連れて行ってくれてとても楽しかったです。おばあちゃんは裁縫が趣味で手編みのマフラーや最後には多くのお土産をもらいました。みんな本当にいい人達で毎日が充実していました。

Ⅲ．参加希望者へのアドバイス

学生のうちに留学がしたいと思ったことをきっかけに応募しましたが、私はこのプログラムに参加して本当に良かったと思います。私はこれまで留学経験はなく、行くまでは 3 週間は長いかなと不安に思っていましたが、行ってみると毎日が新鮮でとても楽しかったです。学校の先生やホストファミリーはいい人たちばかりで自分が支えられていることを実感しました。ただ、もう少し語彙力を上げていくべきだったと後悔しています。生徒に教える際やちょっとした会話であっても自分が伝えたいことを口に出す難しさやもどかしさを多く感じました。またオーストラリアに関する知識を少しでも増やして行くとより楽しかったと思います。

私はこのプログラムに参加して自分の将来について考えるきっかけになり、新たな目標も見つかりました。行くかどうか迷っているのであれば、私はぜひ行くべきだと思います。日本では経験できないことや必ず何か得られるものがあると思います。